

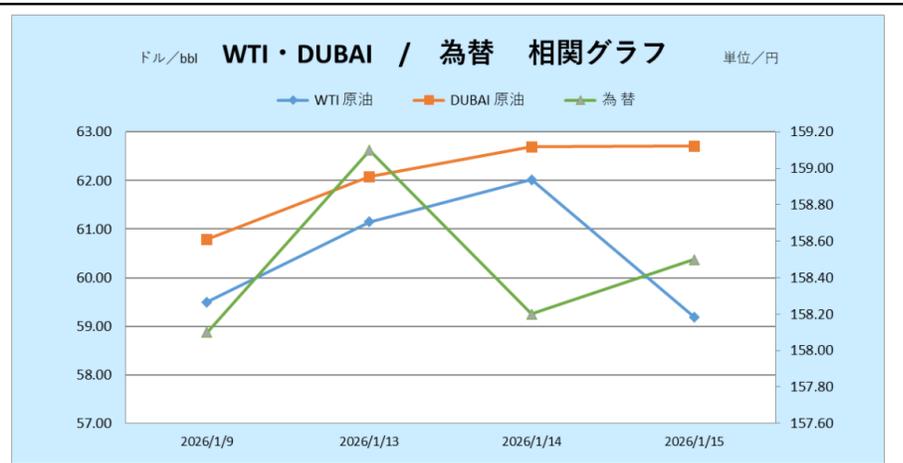
イデックスオイルレポート ~For a week~

株式会社新出光

【NY原油 概況】

●9日のWTI原油は、前日比1.36ドル高の59.12ドルとなった。  
 イランの首都テヘランでは昨年12月末に経済低迷に対する抗議デモが始まり、その後全土に波及。一部のデモ隊は体制打倒を求め、治安部隊との衝突が激化している。英拠点のインターネット監視団体「ネットブロックス」によると、イランでは8日夜からインターネットがほぼ遮断された。  
 ●12日のWTI原油は、前日比0.38ドル高の59.5ドルとなった。  
 イラン各地では経済低迷に対する抗議デモが継続。トランプ米大統領は11日、イラン情勢に関し、軍事介入の可能性を示唆し、警告した。  
 ●13日のWTI原油は、前日比1.65ドル高の61.15ドルとなった。  
 米紙ニューヨーク・タイムズ(電子版)は13日、イラン保健省当局者の話として、同国各地で続く反体制デモで、治安部隊を含め約3,000人が死亡したと伝えた。米国がイラン攻撃の検討を本格化させる中、イラン側は米国が介入すれば軍事的に報復するとけん制。  
 ●14日のWTI原油は、前日比0.87ドル高の62.02ドルとなった。  
 イラン各地で続く反体制デモを巡り、トランプ米大統領がデモ支援に向けて介入姿勢を強める中、ロイター通信によると、イラン政府高官は14日、デモ支援のため米国がイランを攻撃すれば、中東にある米軍拠点へ報復攻撃を行うと警告した。  
 ●15日のWTI原油は、前日比2.8ドル安の59.19ドルとなった。  
 トランプ米大統領は14日夕、反体制デモが激化したイラン情勢について、「現時点で入手した情報では、治安当局によるデモ隊の殺害、処刑は停止されている」と説明。この発言をきっかけに、米国による軍事介入を警戒した買いに歯止めがかかり、相場は62ドル近辺から一気に3ドル近く急落した。

2026/1/16 12:00現在 WTI原油 59.10ドル 為替 1ドル 159.77円



【次回価格変動予想】

1/22~1/28

【市況総括】

ガソリン	➡	3.0 ~ 3.5
灯油	➡	3.0 ~ 3.5
軽油	➡	3.0 ~ 3.5
A重油	➡	3.0 ~ 3.5
LSA	➡	3.0 ~ 3.5

《今週》 今週の元売り仕切り改定は、3社ともに原油コストは「-0.5円」、補助金は、全油種「±0円」、都合、全油種「-0.5円」の改定となった。  
 《来週》 次回の元売り改定は、原油コストは「+3.0円~+3.5円」、補助金は「±0円」で、都合ガソリン「+3.0円~+3.5円」の改定予測となっている。

※原油コスト「+3.0円~+3.5円」  
 ※補助金 前週比±0円  
 ※現時点での予測です。

【次世代エネコラム】

＜大型車の脱炭素化、課題山積みも本命は「液体水素、三菱ふそうが開発本格化＞

大型商用車の脱炭素化において、電気自動車(EV)はバッテリー重量による積載量の減少や、膨大な充電電力によるインフラ負荷が懸念されており、代替策として水素エネルギー技術の開発が加速しています。中でも三菱ふそうトラック・バスは、長距離輸送における切り札として「液体水素」の活用を本命視し、実用化に向けた技術開発を本格化させています。  
 液体水素は、従来の圧縮水素ガス(CHG)と比較して体積あたりのエネルギー密度が高く、燃料タンクを小型化できるため、トラックの積載スペースや輸送効率を損なわない点が最大の利点です。同社は、親会社である独ダイムラー・トラックが開発した「サブクール充填(sLH2)」技術の国内導入を目指し、岩谷産業との共同研究を開始しました。この技術は、液体水素を加圧して沸点を上げることで、充填時の気化ロスを抑制し、専用の回収設備を不要にする画期的なものです。しかし、実用化には極低温状態の維持管理や法規制の壁など、多くの課題が立ちまわります。  
 現在、国内には液体水素を直接充填できる商用ステーションが存在せず、関連法規もガス充填を前提としているため、インフラ整備と規制緩和が急務です。また、他社が実績のあるCHGを採用する中、三菱ふそうは業界全体の標準化を目指して関係省庁や団体との協議を進めていますが、水素価格の高止まりや市場の不透明感もあり、その普及には技術革新と政策的な後押しが不可欠な状況となっています。